

幼児から高齢者まで手を携え地域ぐるみで構築する防火防災まちづくり

団体名：船橋会（成城）

【概要】

船橋会は、小・中・高等学校、PTA、商店街、青年会等と密接に連携し、祭りや盆踊り等を毎年盛大に開催することにより幼児から高齢者まで多数の住民の融和協調を図るとともに、住民の意識を避難所運営訓練、防災訓練等への参加や住宅用火災警報器の設置促進等に導き、幼児から高齢者まで手を携えた地域ぐるみで防火防災まちづくりを実現している。また、発足以来62年間に渡り、各種防災訓練を継続して実施し、地域の防火防災行動力の向上を積極的に推進している。

【活動内容】

- 1 世代交代の盛んな住宅地であり、児童から高齢者まで防火防災意識の高揚を図り、多くの住民が参加しやすい訓練を実施している。避難所運営訓練は、「地域防災訓練・学校に泊まろう会」と銘打ち、4～5人用テントを35張り購入し、PTA等と共に学校での体験宿泊を行い、子供達の楽しい思い出作りを兼ねた防火防災の意識付けと後継者育成に取り組んでいる。また、命の尊さと有事の際の救命行動力を育てるため、中学校の生徒に対し費用を町会が負担し、平成18年から毎年普通救命講習を受講させている。
- 2 船橋会で防災活動資金を蓄えており、地域ぐるみで有事に備えるとともに、避難所運営訓練、防災訓練、救命講習の推進及び住警器の設置促進並びに消防団可搬ポンプ搬送車の購入・維持管理を実施している。また、消防団とも強力な連携関係を持ち、地域における自助・共助・公助の連携体制を構築している。
- 3 平成21年6月に発生した船橋一丁目の火災では、その後、消防署と協力して区域内の住宅に対して、住警器設置促進のためローラー作戦を64名で実施した。また、各種行事の際には、必ず住警器コーナーを設け、住警器の設置促進を図っている。



あおばまつり風景

評価事項等

- ・各種行事を通じ、楽しみながら幼児から高齢者までが顔見知りになれるよう工夫し、小・中学生の防災訓練への参加、消防団との連携など地域の共助体制を構築している。
- ・救命講習の重要性を強く認識し、町会が費用を負担し、中学生に救命講習を受講させている。